

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370301214		
法人名	社会福祉法人 加茂光陽会		
事業所名	グループホーム 杉宮 (紙ふうせんユニット)		
所在地	岡山県津山市杉宮820-1		
自己評価作成日	平成22年10月22日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomat ionPublic.do?JCD=3370301214&SCD=3
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成22年11月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会の認知症サポーター養成講座を終え、認知症サポート事業所の認定を受けている。認知症の理解とサポートを推進している。 ・建物周辺は森林や田園に囲まれて、静かな環境の中、皆さんが「ゆったりとして生活を送られている。散歩は毎日の日課とし、四季折々の季節を楽しみながら、地域の方々とのふれあいも増えて、抜群の生活環境に立地している ・健康管理の中で水分補給には配慮し、水分量のチェックにより風邪予防を行っている。 ・家族や地域の方から取れたての新鮮な野菜の差し入れて、旬の食事を食べて頂いている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>このホームの利用者のADLは向上している。毎日の体操やストレッチの継続と食事及び水分補給の効果があり、利用者本人の能力や技能を尊重し、利用者同士の協調心を職員が側面的に支援している。2つのユニットが毎日広いウッドデッキで作られたテラスに集まり、体操やレクリエーション、お茶やコミュニケーションを続けている。そして利用者の技能を活かし、素晴らしい作品作りをして、他の利用者も刺激を受けて生きがいを見つけている。又、生活マップを作り、利用者と良く話し合っ地図の上に一人ひとりの思いや思い出を作品として残している。職員は一人ひとり工夫を凝らして明るく元気に働いている様子も心地良く見る事ができた。職員の配置も日中1:3を確保出来る体制にあり、食事を全部職員が作り、利用者に満足な生活が確保できることは、本人や家族にとって安心出来るホームである。21年度目標達成計画も実行でき、今後の運営に活かされていこう。</p>

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない 	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> 職員全員でどんなホームに成りたいかを考え意見を出し合った 食事摂取量の極端に少ない方が、入所後美味しく食事が摂れる様になった 	両ユニットが共有するウッドテラスから自然を満喫出来る環境は何事にも換え難い恵である。職員は、愛と優しさを持った奉仕の心でケアに当たり、理念と目標、そして職員のモットー通り、高齢者の理想郷の実現に向かっていく。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ホームが通学路に面しているため、朝の玄関掃除時小学生や父兄に挨拶をする 散歩の途中、出会った方と少しでも会話をするよ心掛けている 	ホーム行事や講座を開催して、ホームに立ち寄ってもらえる付き合いを21年度の目標に設定して改善してきた。今後は住民向けの講座や話し合いを拡大し、積極的な交流に取り組もうとしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 推進会議を利用して、勉強会を行う時があり、地域の方にもお知らせをしますが、なかなか参加して頂けません。まだまだ力不足です 		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 年6回開催している(市職員参加) 意見や要望を聞き検討している 	ボランティア受け入れの充実や、認知症サポート事業所の認定を取得して、関連事業を推進して活発な活動がなされ、地域住民からの理解や交流が次第に増えてきている。運営推進会議も2ヶ月に1回確実に開催している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケア会議に参加し、利用状況や現状、ケアサービスの取り組み等を話している 相談や質問を高齢介護課に行っている 	勝北地域包括支援センターが毎月1回開催する包括ケア会議に出席して、地域の行政や施設とのざっくばらんな情報交換や話し合いができています。市担当者には、困りごと等適切な対応が得られ、十分な連携が取れている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 徘徊のある人は常に居場所の確認 外に出る気配を感じたら一緒に出る 申し送り等で気になる問題への対応は話し合う 	マニュアルに沿った勉強会は行っているが、実際には問題が生じた事がない。精神面には十分に配慮し、コミュニケーションを重点的に考えている。玄関の出入りもチャイムが鳴るので、出入りには問題なく職員もついているので問題ない。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 研修に参加し、他職員に報告し勉強をしている 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・現在対象となる方は居りませんが、今後入所された時は、支援できるように努めます		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時に管理者が説明を行い、その都度質問を受け対応している ・将来についても現時点での考えを聞かせてもらっている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議で家族の要望、意見を聞き、可能なものは実現している	2ヶ月に1回、個人宛のしゃぼん玉だよりで情報提供し、家族が気軽に寄ってもらえるホーム作りを心掛け、来訪の際は出来る限り面会し、信頼関係の構築に努めている。家族も、本人の様子を見て「こんなオヤジの明るい顔付初めて見た」と驚いた気持ちを言ってくれる。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会議や申し送り等で意見や提案を聞き検討する	月1回職員会議は両ユニット合同で行う。行事計画や日々の運営に関する課題等を持ち帰り、忌憚のない意見を出し合う。必要ある時は管理者は役職会議に図り、必要な事を即時結果を見出したり、課題を投げかける。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・全職員との面談(年2回)実施 ・推進会議への参加時、随時意見交換し、職場環境の整備に反映		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・半年に1回の社内研修 ・職場会議等での情報交換・介護技術向上の仕組み ・社外研修への参加でスキルアップ		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・社外情報交換の場への参加機会増しにより情報収集とネットワーク作り及び、自己啓発の場としている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・出来るだけなじみの食器・寝具・衣類・小物等を使用し安心できるスペースを提供するよう心掛けている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入所前の面接や契約時に家族の意向・要望等を聞き、添えるように努めている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人、家族の思いをしっかりと聞き、必要としている支援を見極めている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・軽作業やレクリエーションを共に行うことで、達成感や喜び等を共有している		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会時等にケアの方針や方法を話し合う ・家族によっては助言を頂くこともある		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・なじみの人や場との関係継続は、家族の協力を得て支援している	地域のイベントに参加して馴染みの人と交流が出来ることもある。馴染みの関係を今少し掘り下げて支援が出来、初めて入所してきた人が利用者同士早く馴染めるよう職員の配慮や心掛けもしっかりしているので安心である。	生活歴を見直し、大切な人、懐かしい人を今少し掘り下げて、どう結び付けるかを検討出来れば、利用者にとってこの上ない喜びになるのではないのでしょうか。
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・ホールで利用者の興味(歌・ゲーム等)のあることや、職員とのコミュニケーションを増やすことで、集まりやすく、関わり合えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所後まで多少のつながりがあるのは、30%程で、その他は連絡も途絶えがちになっている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の生活の中で、言葉や表情、態度や行動から垣間見える思いを感じ取るように努める	個人と向き合う時間が少ない中で、入浴時には集団では言えない本人の思いを引き出し、傾聴するよう努めている。リビングでは聞けない意見が出ることもあるので、対応に気付かされることもある。思いや意向の把握はケアの大切な基本である。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・本人や家族から生活歴や馴染みの暮らし方の情報を収集している		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・軽作業やレクリエーション等から有する力が分かり、継続することで変化も見えてくる ・日常生活のちょっとした変化や顔色、表情、行動から心身状態が分かることもある		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・担当医には定期受診時、家族には面会時等に報告相談を行い、内容を職員全員で共有して話し合い、介護計画にいかしている	昨年の目標達成計画の課題であった介護計画書に関連の記録の仕方を改善した結果、それぞれの記録表が連動して、利用者の心身の変化が見やすくなり、より良い介護計画作成に役立つようになった。	介護計画作りのためのアセスメント、介護記録と計画への結び付き等ケアマネジメントの新たな方向が見出されてきた。今後の推進に期待しておきたい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・各担当者がケアプランに沿った気づきや反省を毎月記録している		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・日々の暮らしの中での、生活リハビリ ・四季折々の行事や外食、ドライブ等を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・四季が感じられる塩出池 ・外食の出来る食堂があるスポーツ公園 ・ボランティアで話し相手等に来てくださる愛育委員		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入所前からの馴染みのかかりつけ医との関係を継続している	家族の意向に沿い、かかりつけ医との連携を十分に図っている。家族との連携も十分にとれており、家族の状況に応じては通院介助を職員でもすることもある。医療機関 家族ホームの連帯はしっかりとれている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・週1度、只友医院より看護師に来て頂き、健康チェック、相談にのって貰っている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時の対応は家族と職員で行い、入院までの経緯、日常の様子等の情報を医療機関へ提供する ・入院中は家族に様子を尋ねたり、見舞いに行き病院関係者と情報交換を行う		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・家族の意向に沿って可能な限りの対応を行う為のマニュアルはあるが、今のところ要望が無く、実践していない	現在は軽度の利用者が大半であるが重度化に備えてどのようなケアが出来るか、同一法人の特養ホームへの移動も含めて家族と良く話し合っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・救急マニュアルを作成 ・消防署員協力で応急手当や初期対応の訓練を実施		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・防災災害マニュアルを作成 ・消防署員協力で防火訓練を実施 ・町内会長・消防団・近所の方の協力の許可を得ている	地域住民、団体の協力体制が敷かれている。消防・避難訓練も関係者の協力を得て確実に実施している。ホームでは出来る限りの対応はしていきたいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の内容や声のトーン、大きさ・語尾などに注意をしている 特に他者の前では、間違っただ行動等を否定したり、ことさら正したりしない 	敬語と方言を使い分け、親しみの中にも年長者を敬う。尊敬の念は絶やさない。家庭の事情の違いを考慮し、利用者間で野悪い情動を出来るだけ引き起こさないよう職員は心掛けている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや希望が自己決定できるように、声掛けの仕方を工夫している(例えば、飲み物とか、洋服など) 		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> 編み物、ハーモニカ、塗り絵、本読み等、個々が得意とすることを支援している 		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 入浴時、着替えの準備を利用者と職員が一緒に行うようにしている 朝の髭剃り、整髪支援 女性の希望者にはマニキュアを行っている 		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の下ごしらえや食後の後片付けを手伝ってもらう 職員も食卓を囲んで同じものを食し、会話を楽しむようにしている 	好き嫌いなく、みんな仲良く、一緒に食事を楽しむことが出来る事がこのホームの一番のモットーである。献立は一汁三菜の品揃えを基本とし、当番の職員は自分の腕を振るう。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 水分・食事摂取量、バイタルチェックを毎日記録している 		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> 毎食後、それぞれの力に応じた口腔ケアを行っている 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・個々の排泄パターンや仕草を把握し、トイレ誘導、介助を行っている	排泄記録に基づいた時間誘導を行ってきたことで、パットの使用数が減ってきた人もいる。オムツ使用者は居ない。いつまでも便器で排泄できるよう支援を怠らない。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・予防として、水分摂取、軽い運動、腹部マッサージ、乳製品摂取等を実施している		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・利用者とゆっくりコミュニケーションがとれる空間なので、楽しくリラックスしていただけるように、会話等工夫をしている	入居時はゆっくりと対応し、リビングでは表出出来にくい利用者の思いや希望を引き出しながら傾聴することを心掛けている。2日に1回は入浴するようにしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・日中も夜も、個々の休みたい時に、休んでもらっている ・季節や機構に応じた室温や馴染みの寝具を使用している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬の準備から服薬までに、3人の職員が確認できるようにしている ・薬の変更は申し送りにより、職員全員に伝わるようにしている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・テラスのベンチで季節を感じたり、ハーモニカの得意な利用者に合わせ、皆で歌っている ・水遣りやトレー拭きなど、役割分担しているものもある		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・意思表示の出来る方に行いては、希望に沿うよう努めている ・季節ごとの行事には、家族の協力参加あり ・「とん度」は、地区の神社に参加している	両ユニット共有のウッドテラスの活用で、外出気分が味わえ、ユニット間の交流も楽しめている。地区のイベントや保育園に出掛け、温かく迎えてくれる。近所への散歩も午前中に車椅子の人も一緒に出掛け、地域の人との親密度も高まって来た。	認知症講座を通じ、散歩支援ボランティアの結成が出来ると楽しみが増えそうだ。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・個人では、お金を所持していない		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・年賀状作りを昨年行い、家族に送り喜ばれる		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・玄関には季節毎の花や小物を置いている ・ホールには、利用者と一緒に作成した壁飾りで季節感を出している	川柳、短歌の達人の先導で、利用者が協力して作成した立派な作品が壁に貼っており、他のユニットでは生活マップを貼り、暖かい雰囲気作りをしている。又、ウッドテラスはこのホーム全体を居心地良い理想郷に仕上げていると言っても過言ではない。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ホールではソファを活用している ・テラスではベンチを活用している		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・自分の写真や作品を飾っている ・馴染みの物を持ってきていただき、リラックスできるように配慮している	どの利用者の部屋も清潔でシンプルに整えてあり、門札は花名で表示してある。壁の展示物や花の飾り付けで利用者の個性を表現しているように見受けられた。家具や道具はそれぞれの生活史を表現している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・ホールや廊下を広く取り、整理整頓していることで、利用者同士や物への接触転倒の危険性を、回避している		